

環境科学同窓会通信 第 34 号

Environmental Science Alumni Association Newsletter Vol. 34

目次/Content

1. 「北海道大学での二年半——私を変えた留学生活とその後の歩み」

ヨー ナエン（中国政府機関職員）

北海道大学での二年半——私を変えた留學生活とその後の歩み

ヨー ナエン（中国政府機關職員）

2019年10月から2022年3月まで、私は北海道大学大学院環境科学院で二年半の時を過ごしました。今振り返ってみると、あの日々には感謝すべき人々や出来事が本当にたくさんあったと感じます。

日本に来たばかりの頃は、正直なところ、かなり長い間、環境に慣れずに苦労しました。食生活の違いや、周囲のまったく未知の環境に戸惑い、買い物や電車の利用といった日常なことさえ、どうすればよいか分からず困惑することもありました。当時は自分が本当に適応できるのか、内心大きな不安を抱えていました。しかし幸運なことに、私はとても温かい人々との出会いに恵まれました。野呂先生をはじめとする研究室の皆様は、学業面で多くのご指導をくださっただけでなく、日常生活においても細やかな気遣いを見せてくださいました。先生は研究の方向性を丁寧に整理してくださり、先輩や同期たちは「お得なスーパーの情報」や「冬場の滑り止め対策」など、生活の知恵を惜しみなく教えてくれました。特にコロナ禍という不安の多い時期には、そんなささやかな支援の一つひとつが、私にとって何よりも心強い支えとなりました。今でもそれらの思い出は、私の心を温かくしてくれます。

2022年に帰国後、私は専門分野に関連する政府機関に採用されました。現在の業務では、大学院で学んだ専門知識を直接活用する機会はほとんどありません。しかし、留學生活を通して得たものは専門知識をはるかに超える価値を持つものでした。日本での数年間は、それまで知らなかった世界を見せてくれ、多様な人々や物事をより寛容な視点で捉えることを教えてくれました。実験を通じて培われた緻密な思考、問題発生時の柔軟な対応力、そして「困難に直面しても挑戦し続ける」という粘り強さ——これらは現在の仕事において、私の最も強力な武器となっています。時に難しい課題に直面した時、「あの時、異国で乗り越えられたのだから」と自分に言い聞かせ、前向きな気持ちを取り戻すことができます。

卒業からすでに四年以上の歳月が経過しました。この間、私は社会人としてのキャリアを積み、大切なパートナーと出会い、新たな家庭を築くこともできました。学生時代に想像していた未来とは少し違う道を歩んでいるかもしれませんが、現在の生活に深い充実感を覚えています。そして今、この異国での経験が私に残してくれた真の財産は、学位という形式以上の、かけがえのない人生の経験そのものであったと強く実感しています。この経験は私の視野を広げ、同時に地に足のついた人間へと成長させてくれました。今後も、この経験から得たすべてのものを仕事と人生に生かし続けたいと考えています。微力ではありますが、自分なりの方法で社会に少しでも良い影響を与えられるようになれば、これ以上の喜びはありません。

最後になりますが、北海道大学、大学院環境科学院、そして野呂先生をはじめとする研究室の皆様に心からの感謝を申し上げます。異国での生活の中で、皆様には家族同然の温かさを感じさせていただきました。本当にありがとうございました。

発行：環境科学同窓会事務局
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 5 丁目
北海道大学 大学院地球環境科学研究院内
Fax: 011-706-4867
e-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

Issuer: Environmental Science Alumni Association Office
Graduate School of Environmental Science, Hokkaido
University
Kita 10 Nishi 5, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan
Fax: 011-706-4867
E-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html (日本語)

You can visit our back issues page here:

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html (English)